

KTSM in 広島～実技セミナーアドバンスドコース in 広島～

平成 25 年 12 月 14 日（土）に口から食べる幸せを守る会 第 2 回実践セミナーを日本赤十字広島看護大学にて開催いたしました。この実践セミナーは、生命を育む根幹であり、人間が幸せに生きるための基本的な権利である「口から食べる」ことを守るための、よりクオリティーの高い食支援に関連した知識・技術の向上を目的に企画いたしました。参加者は、これまでも摂食・嚥下リハビリテーションに従事していて、よりスキルを磨きたいという医療従事者を対象におこないました。

参加者職種	
医師	3
歯科医師	5
看護師	31
言語聴覚士	3
管理栄養士	2
歯科衛生士	1
合計	45 名

都道府県別参加者数					
広島県	10	山口県	2	鳥取県	1
長崎県	10	兵庫県	2	富山県	1
岡山県	3	愛知県	2	熊本県	1
沖縄県	3	愛媛県	2	香川県	1
福岡県	2	京都府	1	神奈川県	1
和歌山県	2	大阪府	1	合計	45 名

氏名	所属	職種
小山珠美	東名厚木病院	看護師
一瀬浩隆	東名厚木病院	歯科医師
大石朋子	神奈川県立保健福祉大学	看護師
川端直子	広島市総合リハビリテーションセンターリハビリテーション病院	看護師
金志純	日本赤十字広島看護大学	看護師
近藤奈美	みなと医療生活協同組合協立総合病院	看護師
嶋津さゆり	熊本リハビリテーション病院	管理栄養士
杉本みほ	広島市立安佐市民病院	看護師
竹市美加	JA 広島総合病院	看護師
谷恭子	谷歯科医院	歯科衛生士
為季周平	社会医療法人緑社会金田病院	言語聴覚士
藤井博美	広島市立広島市民病院	看護師

講師・アドバイザー一覧

オブザーバー：2名 横山信彦（誠愛リハビリテーション病院・医師）

迫田綾子（日本赤十字広島看護大学・主任教員）

会場スタッフ：6名（日本赤十字広島看護大学 摂食・嚥下障害看護認定看護師教育課程修了生）

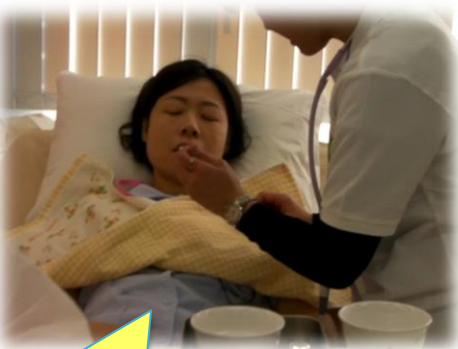
受講者の困難事例に対する実技演習 2 (ベッドサイドスクリーニング評価)



足底をしっかりつけてポジショニング開始!



患者の目線に合わせて物品配置



口唇・口腔内を湿らせて
スクリーニング準備



MWST は機能障害の程度に
合わせて冷水1~2ccから



スプーンの挿入角度も重要



頸部聴診をしながら



端的な声掛けが重要



開眼アシストをして視覚入力を図る

指定事例の食事介助全体デモンストレーション



食物の物性を確認



上肢の操作性を誘導するためのシーティング



手添えでの捕食介助：患者さんの目・手・口の動きに同期すること！



器の2個持ちは、示指をフリーに!!

指定事例について実技演習3（ベッドサイドスクリーニング評価、食事介助）



食物を見せながらの食事介助
角度、方向、タイミングをどう総動員し介助するか！



患者の視線に合わせて食事介助



重度左側空間無視患者への頸部



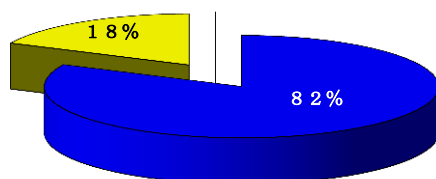
眼球右方偏倚に対して
視覚情報を遮断し正面位へ誘導

広島実技セミナーを終えて受講者のアンケート結果

(集計 39 名、回答率 87%)

セミナーの内容はスキルアップにつながったか？

- 1. かなりそう思う
- 2. まあまあそう思う
- 3. あまりそう思わない
- 4. そう思わない



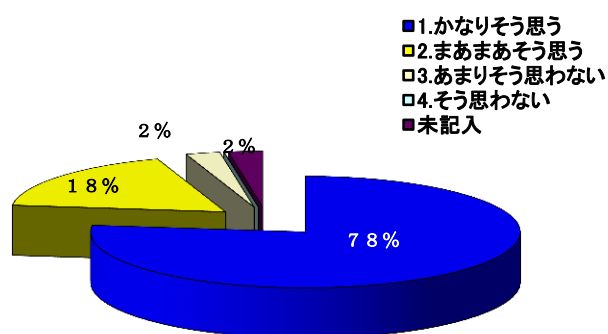
<コメント>

- ・短時間でもあり、今日のスキルが全て実践できるかという自信がないですが、ポジショニング、食物認知、視覚刺激、食事介助をテキストを見ながら少しずつやっていこうと思います。
- ・食事介助は日々行なっていますが、改めて考えて行い、活かしていきたいです。
- ・食べさせてもらう経験がなかったので、患者さんの気持ちが少しわかった。患者さんの目線に立ち会い、スプーンを自分が思うより奥に入れれないといけないとわかった。
- ・学校卒業後、実践セミナーは受けたことがなかったので再学習できた
- ・実践を通じてアドバイスをもらったのでよかった。
- ・病棟など今日の学習したことを伝達して、自分のスキルアップにつなげていきたいと思っています。
- ・口腔ケアで、患者さんの視界に圧迫を感じさせない手の使い方や指で口角を下げ、見えるスペースをつくってケアしていくことなど、今まで注意できていなかったところが多く、学びになりました。
- ・自分が今までしていた事を改めて直さないといけないと感じました。参加メンバーと協力して行きたい。
- ・タイミング良く食べてもらうため、テンポよく食介する必要がある時があることを学びました。待てばいいものではないと、目からうろこでした。
- ・視覚情報をもっとしっかりすべきだと感じました。見せてるつもりだったかもしれません。
- ・たぶんできていない所が他者に見てもらうことで良く分かった。自分が患者役をすることで、こういう所をこうした方が良いということがわかった。
- ・交互嚥下、患者さんが自力捕食しつつも、介助者も補助するというスキルが新鮮でした。
- ・事例についての介助方法についてダメな点がわかり適切な方法をアドバイスして頂き良かった。
- ・口頭でしっかり指示を出して素早く行なうことの大切さを学びました。そのためには準備が大切であることに再度気がつきました。今までスプーンについたものをふちにたたいて落としていましたが、明日からやめる努力します。
- ・聞いてみるだけで知った、理解した感じになっていましたが、実技指導してもらえると、実際は出来ない(食事介助

やポジショニング、スプーン、目線など)たくさん練習しなくてはなりません。

- ・スクリーニング実施時の声かけや技術、食事介助での食品の位置など一つ一つにおいて、患者さんの持てる力を引き出すためにどのような工夫が大切か気がついた。
- ・主に実技がほとんどだったので、分かりやすかった。アドバイザーの人がすごく分かりやすく教えてもらったので理解しやすかった。
- ・スキルが足りず、どうやって食べれるのか評価する際もSTに頼っていることが多かったので、今後は今回学んだことを踏まえて、日々積み重ねながら更にスキルアップに努めたいです。患者の気持ちを考えながら援助していきたいです。
- ・自分自身ができていなかった事が学べたが、介入スキルをもっと学びたかった。自分で技術を上げていかないといけないと思った。

セミナーの内容は実践の場で活用できるか？



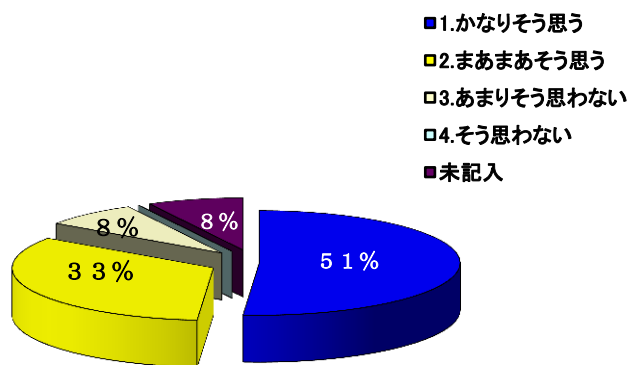
<Q3 コメント>

- ・食事介助の場面は実践できそうです。スタッフにも情報伝達したい。
- ・スクリーニングは行なったことがないので、ST など行なっている場面を見て行なっていきたい。
- ・自分をもっと Bedside にいてやっていけると思った。
- ・車イスでもポジショニングが必要だとわかった。また、左半側無視の方にしっかり食品を見せるために視線の確認をしたい。
- ・覚醒不良、認知症患者での摂食訓練やスクリーニング
- ・食事介助について患者様に目線に合わさずいままで行っていたがしっかり見てもらい、介助をしてほしいと思います。
- ・日々の口腔ケア、食事介助に今日の学びを活かしたいです。
- ・回診時や食事介助の援助時にしてみたいと思う。MC についてももっと練習したい。
- ・ポジショニング、自身が介助されて安定感があると食べやすいことを感じた。
- ・スクリーニングテスト時のポジショニング、検査水の注入量などテストなら「食べる」につなげる方法を学ぶ事が出来ました。
- ・急性期の患者に対して実践してみたいです。
- ・実際の臨床では曖昧になっている事が多いと実感した。基礎的な検査からどんな症例に対してもアプローチしようと思った。

- ・ゼリーとの交互嚥下、2個を持ち介助が大変でしたけど訓練して出来るようになりたい。口唇閉鎖のアシストやゼリーなど食べる時のアプローチ・スキルをあげていきたいです。
- ・日々の臨床業務でもっとテンポアップし評価・摂食介助行っていきたいです。
- ・車椅子座位時のポジショニング、食事の捕食介助方法、食事介助ペース、スプーンの挿入、設置方法
- ・半側空間無視の患者に関わったことがなかったので、想定するのが難しかった。
- ・今日ならったことは、スグに出来るものではないと思いますが、熱意を持って練習すれば、大活用できると思います。またスペースを埋めるというもののポイントと感じました。
- ・スクリーニングからギャッジアップの角度と食事形態の選択が理解できた。
- ・まず、スクリーニングテストをしっかりと経口摂取につなげていきたいと思います。ポジショニングを行い、緊張をなくして楽な姿勢にする。一人ひとりにつき集中して介助していきたいと思います。
- ・基本的に今後の新人に対しての指導の際に活用します。
- ・マウスケアの方法を改めて学んで、ポジショニングが不十分だったので、病棟でも統一して介入できるようにマニュアルを作成出来れば良いと思います。

自ら企画しようと思うか？

<Q4 コメント>



- ・実践セミナーやりたいですね。記憶が新しいうちに。
- ・地域では、嚥下の事に興味がある人も多いので、情報発信したい。
- ・今まで基礎の勉強会を行うことが多く、実践も行ってはいたが具体的な患者像がなかった。実際にかかわるスタッフとしては具体的な介助も知りたいと思うため、症例設定してやってみたいと思った。
- ・参加メンバーと協力して、可能であれば病院全体へ伝えていきたい。
- ・病棟でNsの勉強会で行いたい
- ・実技はどんどん実践を行う方がスキルアップするので、できれば自分の施設での実技セミナーをしていきたいです。それと地域で研修会があるのでセミナーの紹介を兼ねて勉強会をしていこうと考えています。
- ・自分ではないが看護研究で行っている病院で希望がありました
- ・自分ではまだまだスキルがないので…。でも、病棟の勉強会ぐらいなら出来そうです。
- ・今年度シリーズ研修を行うなかで、食事介助については取り上げましたが、十分にできていない。自らスキルも磨き、来年度少人数あるいは病棟で実際の症例をあげながら行っていきたい。
- ・スクリーニングについて12月16日予定しているので、是非具体的に指導していきたい

- ・スキルがまだまだ追いついていない。でも、スキルを磨く必要あり。実践を積む必要があるため。
- ・職種によって口腔ケアひとつでも意識の差が大きい。チームアプローチが求められることを考えると興味をもってもらえるものがあると思う。口腔ケアや食事介助など
- ・自分が働く職場で他のスタッフも同じスキルがもてるように伝達できたらと思います。
- ・患者さんに心地よい摂食ができるように努力していきたいです。
- ・同じ職種である ST への伝達講習。また、病棟 Ns、介護スタッフへの勉強会などでも情報提供していきたい。
- ・病棟から復こうしていき、全体に広げて生きたい。看護師・STにも勉強会をしたい。
- ・スクリーニングテスト、食事介助方法、看護師側の都合で介助をしている場面が多いので、患者さんの強みや出来ることをフォローできる介助にしていきたいです。
- ・食事介助を実際に行なっている。介護福祉士やヘルパーを対象とし実際に実技セミナーを行なっていきたいと思います。
- ・私の地域では、まだまだ絶食天国です。しかし、必ず変化すると思います。そして、変えていきます。
- ・来年度に企画されているようなので、ボランティアアドバイザーとして参加できるようにしていきたいと思います。
- ・今回のセミナーに同職場から3名も参加させて頂いたので、学んだことを振り返り、スタッフに伝達してみんなでスキルアップしていきたいです。
- ・今回は看護師と二人で参加しました。他のメンバー(ST)なども参加させます。
- ・施設などで介助方法に困っていると聞くと、自分自身の技術もレベルを上げていくために一緒に学ぶ研修を企画したい。

Q5 今後取り上げてもらいたい内容は？

- ・日々行っているケアが本当にこれでいいのかを考えられるものが良いし今回と同じように。
- ・スキルも大切ですが、食形態の選択基準、食形態の適切な種類について。
- ・今後も実践セミナーを続けてほしいです。ぜひ、スタッフを誘って参加したいです。
- ・認知症事例が困難に感じる人が多いため認知症へのアプローチの仕方についても行ってほしい。
- ・食事の選択方法やタイミングについて
- ・食事介助スキルを上げたいので、食事介助(注意・抑制障害がひどい症例)
- ・認知症患者さんへの対応
- ・「口から食べる」こととでの問題点
- ・間接訓練、唾液腺マッサージ、食事介助技術
- ・フィジカルアセスメント
- ・ポジショニング、認知症患者の援助について。
- ・VF・VE 検査時、誤嚥した場合の吸引法。その他、緊急時の対応法など
- ・口腔ケア困難例に対するアプローチ法
- ・頸損患者対応や気切患者対応など
- ・難事例に対する介入方法